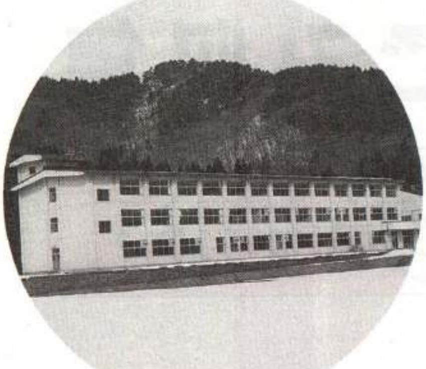
屋根付多目的グラウンド建設誘致促進期成同盟会をいち早く結成し、実現に向けて陳情を重ねてきたところです。また、庁内検討プロジェクトチームからは屋根付多目的グラウンドを含む都市機能整備についての報告があり、現在市ではこれに基づいて整備計画書を作成しています。

今後、建設地の正式決定や方向付けが具体化されると思われますが、県議会の審議動向を見極め、対応していきたいと考えています。

旧東高等学校 校舎の譲渡について

旧東高等学校の跡地利用については、博物館的な機能を備えた(仮称)大館市総合歴史センターとして活用を図るため、昨年九月、県に対して校舎の無償譲渡を正式に申し入れていましたが、三月一日付で譲渡契約を締結しました。

今後、総合歴史センターとしての整備を図り、できるだけ早い機会に市民の皆さんへ公開できるよう努力していきますので、よろしくご理解、ご協力をお願いします。



▷総合歴史センターとして活用される旧東高校舎

老人福祉総合エリア 誘致について

県が整備計画をしている老人福祉総合エリアを本市に誘致するため、福祉事務所に老人施設誘致担当を配置しました。また、大館市老人福祉総合エリア検討委員会を設置し、県への陳情や近隣市町村への協力を要請してきたところです。

県では北部の老人福祉総合エリアの建設地を大館市として調査費を計上し、二月定例会で審議しています。

正式に決定した際には、建設地の選定、用地の確保、施設の整備等について、ふるさと21健康長寿のまちづくり事業や市総合福祉対策プロジェクトの計画策定を踏まえながら、県と協議していきたいと考えています。

大館西道路と国道103号南バイパス

▽**大館西道路**

起点の根下戸新町地内に南インターを、終点の商人留地内に北インターを設置する延長六・二四キロメートル、四車線の自動車専用道路となります。

今年度は長木川橋の下部工が完了し、側道橋は完成しました。

片山国道7号から沼館までの側道は六年度供用開始を目指しています。また、市道御成町・沼館線もこの側道と同時の供用開始に向け工事を進めています。

北インター以北のルートは、小坂町までが基本計画路線となりましたが、今後着工の前提となる整備計画路線への格上げに向けて環境調査が実施されることになっています。この路線は、大館能代空港へのアクセス道となりますので、国道7号大館小坂間高規格幹線道路整備促進期成同盟会において、今後も継続して国、県へ早期完成を強く要望していきたいと考えています。

側道橋と長木川橋の橋脚(西道路)

▽**国道103号南バイパス**

全長九・九五キロメートルで、山館地内で国道103号に、餌釣地内で東バイパスに、根下戸新町で大館西道路南インターにそれぞれ立体交差し、立花地内で国道7号に平面交差します。

餌釣地内での切土工事で崩壊があったために、予定が若干遅れていますが、山館から103号池内地内までについては、七年度の暫定開通に向け、工事が進められています。

東バイパスについて

有浦地内の樹海ラインから餌釣地内の国道103号南バイパスまでの延長三・六七キロメートルのうち、都市計画街路豊町・東台線延長七百十一メートルは昭和六十二年に供用開始され、市道狐台・長根山線延長一・五キロメートルは、今年度六百三十八メートルの舗装工事をして完成予定です。

今後南バイパスとの接続ルートの整備を急ぐ一方、大館環状線(リングロード)の一部となる東台から樹海ライン、さらに将来的には釈迦内の国道7号への具体的ルートの設定が必要です。迅速な詰めが要請され、関係機関と協議中です。

農村集落環境整備について

山館地区農業集落排水事業は、四年度に処理施設工事と管路工事を施工し、現在、処理施設は九五%の進み具合で、管路はほぼ完成しています。五年度には管路の非補助部分の工事と処理施設の機能調整が残るだけですから、五年九月ごろに供用開始できると思います。

真中ミニ総パ事業については、五年度から九年度までの五カ年事業として整備していきます。

雪沢地区については、五年度に中山間地域農村活性化総合整備事業の実施計画を策定し、六年度から着工する予定です。

その他の報告

▽アメッコ市について
▽水田営農活性化対策について
▽除雪について
▽市街地空間総合整備事業計画の策定状況について
▽下水道事業の推進状況について
▽院外処方の実施について
▽公共事業の発注並びに進捗(しんちょく)状況について